



「障害者が、健常者と
同じ社会に生きる喜びを
持てるようになったら、
どんなに素晴らしいまち
になるでしょうか」



やさしさ

あふれる まちづくり

障害者やお年寄りの皆さんにも安心して住めるまちにし
ようと、市内三カ所で福祉ガイドマップ制作のための調査
が行われました。

まず、まちの総点検

道路や公共施設などが使いやすい
か調査し、その結果を地図にする福
祉ガイドマップづくりの準備がいま、
蒲郡市ボランティア連絡協議会が中
心となり進められています。

四回目の実施となる今回の調査で
は、蒲郡中学校や蒲郡高校の生徒を
含め、市民九十二人が参加。実際に
アイマスクをしたり、車イスに乗り
ながら、階段の段差や建物の入口の
広さが適当か、身障者用のトイレが
あるかなど、障害者の立場にたつて
まちの点検を行いました。

「普段なんとなく歩いている道も、
車イスに乗って眺めてみると段差や
でこぼこが多く、通りづらいもので
すね。」とは参加した皆さんの声。
見た目は大したことのない段差も、
障害者にとっては、私たちが想像す
る以上に厄介なものなのです。

みんなで取り組む問題です

あなたは「私は障害者ではないか
ら関係ない」なんて思っていないま

んか。しかし、障害者の立場に立っ
たまちづくりとは、障害者のためだ
けのものではありません。車イスの
障害者にとって危険な道路の段差は、
乳母車や杖をついたお年寄りにとっ
ても、子どもたちにとっても、不便
な箇所なのです。

私たちは、もっと身近な問題とし
て「誰もが安心してくらせるまちづく
り」に取り組んでいく必要があります。

障害者の社会参加を

蒲郡のまちにも、歩行の障害とな
る段差がある、身障者用のトイレが
ない（またはどこにあるか分からな
い）など、身障者にとって改善して
ほしい箇所がいたる所にあります。
そのため、多くの障害者が外出す
ることができず、健常者と同じよう
に、社会に参加したくても、あきら
めなければならぬのです。

今回の福祉ガイドマップづくりの
目的は、障害者もつた人たちが、積
極的に社会に出ることができ、健常
者と共に生きる喜びを分かち合える、
そんな社会にすることにあります。